

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101827		
法人名	株式会社 ライフセーバーコーポレーション		
事業所名	グループホームミントつくだ(ユニットI)		
所在地	青森市中佃3丁目18番9号		
自己評価作成日	令和4年7月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和4年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・認知症の進行・ADLの低下を予防しながら、個々の能力に合わせた支援を行っています。                  ・医療機関と協力し、個々の状態把握に努めています。また、終末期ケアの医療機関とも協力しています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅街にあり、事業所も利用者も地域住民として受け入れられており、町内会行事である夏祭りを開催し、多数の地域住民の参加がある等、社会資源としてホームの役割が大きい。現在はコロナ禍のため実施できていないが、再開できるようになることを常に考えている。利用者は安心して暮らしていける環境で生活ができています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関や廊下、休憩室等に掲示して、周知に努めている。また、毎月開催するカンファレンスや勉強会等の際に共有し、ケアに取り組んでいる。	独自の理念を掲げており、管理者及び職員は理念に込められた思いを理解し、日々のサービス提供に努めている。理念は玄関や事務室共有部分等の目につきやすい場所に提示し、常時確認できるようにしている。カンファレンスやミーティングで共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、回覧板でホーム便りを地域に配布し、ホームの日常や取り組みを理解していただいている。	利用者が地域と繋がりがりながら暮らし続けられるように、地域行事としてホームで夏祭りを開催している。多数の地域住民の参加があったが、コロナ禍で現在は行われていない。現在は回覧板を利用してホームの情報を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため制限はあるが、運営推進会議を通して参加者に認知症の種類・症状等を理解してもらう等、認知症介護の啓発に努めている。また、町内会の古紙回収等の活動にも参加している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの概要、サービスの種類を理解していただけるようにしている。会議の際にいただいた意見等を参考にして、サービス向上に繋げている。	運営推進会議では、ホームからの情報や報告等に対して意見をいただいているほか、自己評価と外部評価の結果を報告している。2か月に1回開催予定としているが、コロナ禍でメンバー全員が参加できない状況である。コロナが落ち着いたら積極的に参加を促し、活発な会議となることを目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告書を提出して、ホームの現状を伝えている。ホームや地域から出た問題を相談して、助言をしていただいている。	運営推進会議には、必ず地域包括支援センターの職員に出席してもらっており、ホームの実情を理解していただいている。市役所とは何かあった際は気軽に電話で相談できる関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例やマニュアルに沿って勉強会を行っている。職員全員が身体拘束を行わないという姿勢でケアを提供している。カンファレンスの際は、意見交換の機会を設けている。	身体拘束適正化委員会を設置しており、3か月に1回開催している。ミーティングや運営推進会議で報告するほか、研修会の機会を設けている。マニュアルや身体拘束に関する指針を整備し、内容や身体的・心理的弊害について理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例やマニュアルに沿って定期的に勉強会を開催して、職員全体が虐待に関する理解を深めるように努めている。カンファレンスの際は、意見交換の機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催して、職員全員が制度に関する理解を深めている。また、必要に応じて利用者と家族に制度を紹介するほか、相談や手続きを代行している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分な説明を行い、同意を得ている。また、退居時に関わる事項についても、入居時及び退居時に十分に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に説明を行うとともに、ホーム内やホーム便りで案内している。意見や要望があった際は、職員全体に周知して検討する機会を設けている。	家族等が意見や苦情を出しやすいように重要事項説明書に苦情相談窓口を明示し、説明している。また、玄関に意見箱を設置し、意見や苦情を出しやすいようにしている。意見や要望は職員間で共有し、日々のケアに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやカンファレンスの際に話し合いをする機会を設け、意見や提案を聞く機会を設けている。	申し送りやカンファレンスで、職員が意見を出せる機会を設けている。出された意見は必要に応じて日常のケアや運営に反映させ、サービス向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情に合わせてシフトを組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため外部研修に参加ができていない。コロナ禍以前は、職員に外部研修の案内をして、希望者は参加できるようにしていた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域内のグループホームで2か月に1回「地域ケア会議」を開催して交流していたが、現在はコロナ禍のため中止としている。コロナ禍以前はグループホーム協会等で開催される研修や親睦会に参加する機会を設けていた。		

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者・家族と面談する等して、関係者から情報収集を行っている。家族の要望・ニーズを汲み取るとともに、信頼していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いやニーズを汲み取るとともに、信頼していただけるよう受容的な態度で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から何が必要なのを見極め、対応できる事は早急に行うように努めている。また、利用できる制度を紹介して、安心してサービスを利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を構築できるように、家事の手伝い等の軽作業と一緒にいき、家族のような関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ホーム便りや電話、面会時等に様子をお知らせしている。面会時や電話の際は、家族と意見交換をして、共に支援をしていけるような関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に家族から情報を得るとともに、馴染みの店や場所に出かけられるように支援している。また、電話や面会等で交流を図れるように支援をしている。	利用者が安心して生活できるように、アセスメントや関係者から情報収集を行っている。馴染みの人や場所を把握し、関係が途切れないようにして支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにソファを配置して、くつろげるスペースを設けている。また、個々の状態にあわせて、利用者同士が関わる機会を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時、サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行うことを説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、利用者のこれまでの生活や習慣の把握に努めるとともに、可能な限り多くの意向を取り入れるように努めている。	入所前の生活について、利用者や家族から聞き取り、生活歴や馴染みの関係の把握に努めている。手紙や電話のやり取り等、これまでの関係が継続できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネジャーから、生活歴や習慣、サービス利用の経過等、多くの情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や関わりから、職員全員が情報収集して、共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎に担当を決めて、利用者の状態把握に努めるとともに、介護計画作成者と協力してモニタリングを行っている。また、毎月カンファレンスを開催して、情報交換を図り、プラン立案に繋げている。	利用者や家族の意見や希望を確認し、全職員で話し合い、個別具体化された介護計画を作成している。状態変化や希望変化の際は、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌等に記録を残して、情報を共有できるようにしている。個別記録は介護計画に沿ったケアを行い、その内容も記録に残している。それを基に再アセスメントを行う等、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の際は、職員が付き添っている。また、必要に応じて、ご家族様の送迎も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は新型コロナウイルス感染予防のため中止としているが、以前は中学生のボランティアや職場体験等を受け入れる等、交流を行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望をもとに、主治医の受診を継続できるように支援している。受診時に家族が同行できなかった場合は電話で報告をしている。	入所前の受診状況を把握し、希望に沿った受診を支援している。協力病院が往診可能であることを説明して選択してもらっている。利用者と家族が希望する医療機関を受診することができる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護による健康チェックを行うほか、定期的に助言をいただいている。主治医の見解のもとに、医療保険による訪問看護、訪問歯科診療を利用できるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に行き、本人の状態を把握している。退院に向けて、ホームでの対応可能な状態を明確に伝えて、今後の受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期や看取りについて家族に説明を行っている。	「重度化対応終末期ケア対応指針」のマニュアル等を整備し、ホームの方針を明確にしている。主治医や協力病院と連携し、利用者や家族の意向を尊重している。状況変化時には、随時話し合いをしながら看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を開催している。また、カンファレンスの際に全職員の意識確認ができるように話し合いの機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。また、運営推進会議で地域への協力を働きかけている。ホーム便りに、ホームの体制と協力についての働きかけの記事を記載している。	火災、地震、水害等に対応したマニュアルを整備している。年2回、日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍のため地域住民の参加は受け入れられていないが、必要に応じて協力を得る体制はできている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや羞恥心に十分配慮した声掛け等を行っている。	利用者の対応や声掛けなど気になったときは、その都度職員間で注意しあったり、改善に向けた話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて、利用者が自分で選べるような場面作りをして支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムはあるが、個々の状態に合わせてできるだけように時間に余裕を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは、利用者が自分で選べるような場面作りを行っている。身だしなみはできる限り利用者が行っているが、必要に応じて職員が援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を手伝っていただいている。また、敷地で収穫した作物を使ったメニューを取り入れたり、季節行事や利用者の誕生日に合わせてメニューを取り入れている。	献立は栄養士の資格を持っている職員が作成しており、利用者の嗜好や食形態に考慮している。利用者の状況や意思等に応じて、食材の下ごしらえや後片付け等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食記録に残し、状況を把握できるようにしている。利用者の状況に合わせて、ミキサー食にする等、食べやすくなるように工夫をしている。水分補給の際は、嗜好品を取り入れたり、形状を工夫して補給量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに見合った声掛けや誘導、見守り、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンに合わせて声掛けや誘導を行っている。	排泄表を活用し、オムツを利用している方でも日中はトイレ誘導をして排泄の支援を行っている。誘導時や失禁時の声掛けは、周囲に気づかれないようにさりげなく部屋に誘う等の配慮をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の確保や乳製品を摂取する等、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々の体調等に合わせて入浴の支援をしている。また、希望があれば都度対応をしている。	その日の体調等を考慮するほか、入浴習慣や好みを把握して、入浴を支援している。週2回の入浴を基本とし、利用者一人ひとりに適切な支援を提供することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送り時に前夜の睡眠状態を把握して、休養時間の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個人別に保管し、処方箋はファイルに綴じて全職員がいつでも確認できるようにしている。処方変更時は、業務日誌に記載して全職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせて、日常的な役割を提供している。また、園芸や手芸等、入居前からの趣味を継続して行えるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため現在は行っていないが、以前は近隣を散歩したり、外出行事を企画して出かける機会を作っていた。	コロナ禍のため感染状況を見ながらドライブ等に出かけ、気分転換を図っている。ホーム内の環境やレクリエーション活動を工夫し、五感に刺激が得られるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力にあわせて、可能な方には金銭を所持してもらっている。また、希望時は職員が付き添って買い物する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話を取り次いだり、手紙を出す等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品や昔ながらの郷土品等を飾っている。	温度、湿度は定期的にチェックして管理している。共有部分や廊下には、行事写真や季節感のある展示物、飾り付け等を展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置している。ホール以外にもテーブルとイスを配置して、利用者同士で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた馴染みの物を持って来てもらっている。また、家具等の配置を自宅と同じ配置にする等の工夫をしている。	使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込んでいただくように働かしている。家族写真や小物、行事の際の写真、手作り作品等、その人らしく安心して過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所がわかるように表記している。		